

Computex Taipei 2016 視察研修報告

日程 2016年6月2日(木)～4日(土)
参加者 11名(視察団長 塩路直大)

はじめに

Computex Taipeiはアジア最大級のICT関連の専門展示会で、今年は5月31日(火)～6月4日(土)の5日間開催されました。

近畿支部では6月2日(木)～4日(土)の2泊3日で視察研修を実施いたしましたので、下記の通り報告いたします。

会場は大きく二つのエリアに分かれており、信義地区では世界貿易センターのホール1、ホール3、台北国際会議センター、南港地区では南港展覽館で行われ、出展社数1,602社(5,009ブース)、来場者は13万人以上で、そのうち国外からのバイヤーは39,000名の登録があったということです。

今回の展示の4大テーマは「IoTアプリケーション」、「ビジネスソリューション」、「イノベーションとスタートアップ」、「ゲーミング」で、これらに関連する製品出展及びイベントが行われました。

世界貿易センターに到着後、台北コンピュータ協会(TCA)東京事務所の吉村氏に会場をざっとご案内いただき、この展示会は3年先などではなく半年後の市場をターゲットとした展示内容であり、ビジネスに直結する取り組み、商談がメインであること、またブース内で交渉や発注を行うスタイルであるとの説明がありました。

世界貿易センターホール1には

世界貿易センター・ホール1



「SmartTEX」(ウェアラブル、セキュリティアプリ、車載電子製品、3Dプリンティング、スマートソリューション等)最新のスマートテクノロジーアプリを展示。ホール3には「InnoVEX」スタートアップ企業による展示、賞金3万米ドルのピッチコンテスト等。南港国際展覽館にはシステム&ソリューション、スマートビジネス(POS)、iStyle(Apple社公認の周辺機器、OSX/iOSアプリ、海外企業の出展が行われていました。

展示会のトピックス

(参加者アンケートより抜粋)

世界貿易センターホール1

IoT関連について多くの出展があったが、それぞれの企業によって「クラウドサービス」、「各種センサー」、「インフラ装置」というようにアプローチの仕方が異なっていた。

Microsoftの展示

展示ルームを温度センサで監視し、どの展示物に多くの人が滞留したかを可視化するデモ。その他GateWayなどIoT装置の展示もあったが、Microsoftが動作証明している装置の多様性を謳ったものであり、あくまでMicrosoftはクラウドプラットフォーム「Azure」の展開が目的でIoTを推進している。



IoTの実現で大量データ(ビッグデータ)を取り扱うということで、クラウドやDatacenter向けを意識したServer及びStorageの出展も多かった。

SmartTexにはSmart Homeに関わるソリューションの展示も多く、本分野がIoT含めて成熟しているのではないかと推測される。IoTは技術や装置でなく、アイデア次第のビジネスだと再認識した。

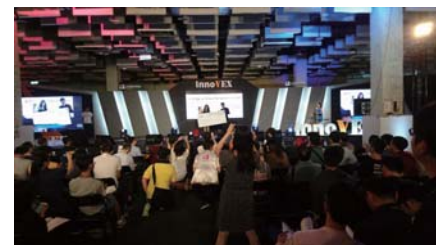


世界貿易センターホール3

スタートアップ企業にフォーカスされた会場で、VRのデモ等ゲーム展示、PC周りアクセサリ(USB、TYPECへの変換機)、3Dプリンタ等が展示されていた。またビジネスモデルのプレゼンテーション対決を行い、優劣を競う「ピッチコンテスト」が行われていた。賞金は3万米ドル、内容は全て英語。



表彰式



観客も多く、また審査員からのQ&Aもあり、新ビジネスに繋げようとするプレゼンターの熱い雰囲気を感じられた。日本ではこのようなイベントを見る機会がないので、興味を持って見学した。

南港国際展覧館

・スカイドーム



ASUSやAcer、Microsoft、MSIといった大企業が注目製品を展示するフロア。ASUSのZenboと呼ばれる自走式アシスタントロボットが時間ごとにデモンストレーションを実施していたが、その時間帯は通路が人で埋め尽くされるほどの観客が集まり、他ブースまで影響を及ぼすほどであった。

そしてこのフロアでもやはりVRが目につくことが多かった。よく見ると皆HTC社製Viveと呼ばれるVRセットを使用している模様。10万円少々で購入できるセットでこれだけ目を引く展示ができるのであれば安いものではないだろうか。

・グラウンドフロア



新製品であるマザーボード等のデモも兼ねてであろうが、オーバークロックの大会を主催している企業もあった。

まとめ

台北・桃園空港に到着する際、豪雨により空港が停電するというアクシデントに見舞われ、機内に1時間ほど足止めされるというスタートになりましたが、展示会場到着後は予定通り視察。2日目は自由行動で、各自が興味のある会場を回りました。下記の感想が寄せられました。

●海外の展示会は初めてで不安だったが、終わってみると特に問題なかった。日本の

展示会と違い、呼び込み等はなく声をかけると対応いただけた。出発前から言葉が懸案事項になると思っていたが、やはり展示の目的や内容がわからず素通りすることが多々あり、残念だった。日程的にももう少しゆっくり回ればよかった。

●初の海外の展示会だった。日本語の説明が思ったより少なかった。JASAのメンバーや出展社の方と交流できたことが価値があったと感じた。

●世界最大級の展示会だけに展示品は多種多様で、すべてを見て回るのは非常に困難だと感じた。最新技術の製品やIT機器だけでなく、スマホケース、ACアダプタ、各種ケーブルまで数多く展示されており、単なるIT見本市ではなく、出展社と多くのバイヤーを結ぶものとして活用されていることが実感できた。反省としてはもっと事前に興味のある展示内容について下調べをしておけばよかったことと、本気で見るにはやはり英語力が必須だと感じた。

●限られた時間内で回するにはあまりにも広すぎ、事前チェックが肝要であると今更ながらに実感した。あたりをつけずに片っ端から見ていくつもりだったが、一つのブースにかけられる時間があまりなく、理解が追いつかないものも多々あった。ブースのスタッフとは英語が主な会話となるため、詳しい話を聞くことが難しい状況ではあったが、展示方法や、雰囲気や直感的にわかる内容を含めて参考になる部分は非常に多かった。

●出展企業が非常に多く、十分にブースを回ることができなかった。しかしスタートアップ企業が集まった会場では新ビジネス開拓への熱気に触れたこと、また他の会場ではIoT、Virtual Reality製品やIndustry4.0等これからのIT市場を支えていくであろう分野についてグローバル視点で知見を得



られたことが、今回の視察研修で得られた一番の成果であると思う。社内メンバーへの情報展開を図るとともに、今後も組込み系やビジネス系という枠にとらわれず、ビジネス協業や情報共有に繋げていきたい。

●今回の視察は海外ということもあり、いつもの展示会とは違った印象でとても新鮮に感じた。確かに目新しい物はないように感じたが、活気があって良い展示会だと思った。また機会があれば参加したい。

●VR技術が活況であり、LEDで装飾された超ハイスペック水冷PCを中心に、やはりIT系はゲームが牽引しているのだというトレンドを再認識させられる視察だった。当初目的としていた長期的ビジネスモデルよりも、今～半年後にどうなるか?をテーマとして活気のある展示会だったという印象。IoTをテーマにしたブースも、即ビジネスに繋げるためのツール提供等が多く、ソリューションにどう展開するかを模索している感がある。工夫を凝らした展示も多く、「使ってみよう」と思わせるプレゼンが多数あったことが印象的である。

●センサーやカメラは、実際の運用による困りごととも考慮した展示となっており、即導入可能なものに仕上がっている。

また他社社員との交流や情報交換ができたことがとても有意義で、今後のJASAの活動においても互いに人脈を広げて、若い力で盛り上げていきたいという声が多かったです。今後の支部活動で再会の機会があれば幸いです。